

# 千葉県建築文化賞

## 第21回表彰作品集



2014年

主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

# 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成26年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第21回目となる今年度は、52点の応募をいただき、千葉県建築文化賞検討会議による検討結果を踏まえ、最優秀賞1点、優秀賞3点及び入賞5点の合計9点を選定いたしました。

受賞作品は、安全や快適性、景観、環境に配慮するなど、本県の建築文化の向上につながるもので、千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域で親しまれ、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、次世代を担う子どもたちが「千葉で生まれて、住んで、働いて良かった」と誇りに思えるような魅力あふれる「日本一の光り輝く千葉県」を築いていけるよう、全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、受賞者並びに応募いただいた皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

平成27年3月

## 目 次

千葉県建築文化賞について	1	千葉大学みのはな同窓会館	8
第21回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	篠原久雄邸	8
市原湖畔美術館	3	牧の原団地 1-21号棟	9
恋する豚研究所	4	受賞作品の位置	9
成田高等学校1号館	5	千葉県建築文化賞の実績	10
House in TSUTSUMINO	6	(応募点数・受賞作品数) 一覧	
沢井製薬株式会社関東工場	7	選考の基準	10
学校法人渋谷教育学園幕張中学・幕張高等学校 30周年記念棟	7		

# 第21回千葉県建築文化賞選考経過と総評

## 応募52点から9点授賞

### (選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第21回千葉県建築文化賞は平成26年7月の検討会議で募集要領を定め、7月下旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数52点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物7点、住宅5点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞1点、優秀賞3点、入賞5点を表彰候補作品として決定した。

昨年度までは賞の区分を「建築文化賞」「建築文化奨励賞」の2区分としていたが、今回から「最優秀賞」「優秀賞」「入賞」の3区分に改めた。従来の「奨励賞」は比較的小規模な佳作の表彰により、若手や中小の設計者・施工者の努力を支援することを目指していた。設置から18年を経て所期の目的を果たしたため、選考の基準を一本化した。新たに設けられた「優秀賞」は、デザイン性に優れ、まちなみや周辺環境との調和や、安全で快適な建築空間の創出に寄与した先導的な建築物を表彰するものである。「最優秀賞」は、そのうちの特に優れた建築物に与えられる。また「入賞」は「優秀賞」に準じ、意欲的な可能性を示した建築物を表彰するものである。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		32	7	1	2	3
住宅		20	5	0	1	2
合計		52	12	1	3	5

### (総評)

#### 一般建築物の部

一般建築物の部への応募は32点で、学校関連施設に佳作が多かったが、それ以外にも公共施設、福祉施設、生産施設など、多彩な作品が寄せられた。

最優秀賞の「市原湖畔美術館」は、1995年に建てられた展示施設のリノベーションである。コンクリートの構造体を残し、スチール折板の壁を挿入して展示室やラウンジ、ホールをつくることにより、旧施設の特徴であった回遊性を活かしつつ、湖と緑の周辺環境と一体になった体験型の美術館を実現している。特徴的な空間を活用したアート作品の展示企画、市民に開かれた活発なワークショップなど、ソフト面の充実も高く評価された。

優秀賞の「恋する豚研究所」は、赤い3つの屋根の下に豚肉加工工場、レストラン、オフィス、広場をまとめた障害者の継続就業支援施設である。周囲の杉林と共存し、2階のレストラン・広場からは緑の眺望を楽しむことができる。福祉と地域の養豚業・農業をつなぐプログラムも可能性を感じさせる。

「成田高等学校1号館」は、山を背負う制約された敷地のなかで、分散していた旧校舎をひとつにまとめた5階建ての校舎である。中央の吹抜け空間が複数の機能を結びつけ、採光と換気の役割を果たしている。水平性を強調したファサードが旧校舎の記憶を継承し、緑豊かな周辺環境と調和している。

入賞の「沢井製薬株式会社関東工場」は、明るく親しみやすい建物と開放的な敷地計画が一体になり、地域に開かれた工場になっている。「学校法人渋谷教育学園幕張中学・幕張高等学校 30周年記念棟」は、図書館とコンピュータ・音楽・アートなどの教室を三角形断面の建物に収め、自主性を重んじる学習の場と環境への配慮を実現している。「千葉大学あひのほな同窓会館」は、水平性を強調した端正なデザインが歴史の積層を表現し、世代を超えたシンボリックな交流の場を生みだしている。

#### 住宅の部

住宅の部の応募は20点であり、今回も県内各地から規模やライフスタイルの異なる作品が寄せられた。

優秀賞の「House in TSUTSUMINO」は、江戸川に面した敷地に建つ、小さなカフェを併設した住宅である。川への眺望を活かすため、屋上を展望用のスロープテラスとしている。複雑な傾斜テラスとレベル差を組み合わせた空間は変化に富み、施工を含めて完成度が高い。一般的な生活の場とは言えないが、建築主の希望に応えた良質な作品である。

入賞の「篠原久雄邸」は、構造材から仕上げ材までサンプスギを使用した住宅であり、エアコンに頼らない生活を含めて、地域循環型の住まいへの意欲的な取り組みである。「牧の原団地 1-21号棟」は、への字形平面住棟の耐震改修であり、屈折部に位置する住戸を減築する手法は同種の改修のモデルになり得る可能性を持っている。

建築主：市原市

設計：カワグチテイ建築計画

施工：山内工業株式会社

所在地：市原市不入75-1

美術館の再生に見る新たな世代の建築文化の息吹き

## 市原湖畔美術館



前面の芝生広場と一体となった美術館

バブル期に建てられた公共施設は、美術館をはじめ数知れない。その後約20年、激しい時代・経済の荒波を経て、その存在理由を問われているものが少なくない。この「市原湖畔美術館(旧市原市水と彫刻の丘)」もその一つであり、プログラムも含めた本格的なリニューアルが計画された。

幸いだったのは、プロポーザル方式によって選ばれた建築家が、若く将来を嘱望されるデュオであったことだ。彼らの全力を注いだ設計アプローチは、単なる施設のリニューアルではなく、既存2次部材をすべてはぎ取った上で、内外の空間的連繫を新たに読みとることから始まった。そして、ダム湖の畔の丘の上という立地条件を最大限に活かしながら、豊かな展示空間を再編集したことが特筆される。その結果、もともと内包されていた複雑な回遊動線が外部との伸びやかな関係性を獲得し、現代美術の多様な表現方法の展開が可能とした。作者等が標榜する

新たな要素としての「アートウォール」は、垂鉛メッキ折版がもつ軽くかつ鈍い質感とともに以前のRC建築の姿を一刷新した。その効果には建築的収まりも含めて賛否両論があるだろうが、若々しい建築的表現としてけれん味がない。

丁度現地調査の時期に、原広司氏自身の写経を中心とする膨大な企画展示が開催中であった。その重たく優れて宇宙的な広がりを持つ展示は、多様な動線と空間に誘われながら、新たな光と命を吹き込まれた美術館の中であって、見る者の心を奪う。交通の便の悪さにも負けず、地方の公共施設として新たなプログラムが持続的に展開されることを祈りたい。

(岩村 和夫)



アート作品と一体となったエントランスコート



展示室の吹抜を見る

建築主：社会福祉法人福祉楽団  
 設計：アトリエ・ワン  
 施工：石井工業株式会社  
 所在地：香取市沢2459番1

福祉と豚のしあわせな関係

# 恋する豚研究所



庭からの外観 レストラン、オフィス、広場などの機能が割り当てられた4つの寄せ棟を複合した屋根 (撮影/アトリエ・ワン)

寄せ棟の赤い屋根が重なり合う佇まいに引きつけられて目をやると、「恋する豚研究所」の看板に出会う。レストランもある。ネーミングに好奇心をかき立てられ、ちょっと特別な豚が食べられそうで、立ち寄ってみる人が少なからずいるのではないだろうか。

主階である2階ののびのびした空間がいい。杉林の緑にすっぽり包まれ、レストラン+売店と事務所がある。これら屋内空間は大きくとられた屋外空間でつながっている。事務所もレストランと同じくらい居心地がいい。真ん中に薪ストーブとキッチンがあって、窓一面に里の風景が広がっている。

1階は主に食肉加工場である。継続就業支援A型の施設で、現在16人の障がい者が働いている。恋する豚プロジェクトの原点は、福祉に携わる人の熱い思いだった。わが国の障がい者平均賃金は月額1.3万円だが、10万円は支払って誇りをもって仕事してもらいたい。これに、地元の養豚業が結びついた。養豚業者は生

産性向上の限界を感じ、付加価値を模索していた。福祉と農業が知恵を出し合ったことにより生まれた新しいかたちの里の景観である。おいしい豚であって、さらに障がい者雇用のささやかな助けになるとなれば、少し値段が高くても思わず応援したくなる。ビジネスクラスの機内食で採用されたという。

車でアクセスする施設ではあるが、駐車場の配置が工夫されている。もう少し樹木が育てば、町外れの瀟洒なヴィラに似たような姿に育っていきそうな気配だ。恋する豚たちがほんとうに出迎えてくれたらもっといいのに、とも思うが養豚場の現場はまた別の世界なのだろう。(岡部 明子)



「広場」と呼ばれる半屋外的空間  
 地域に開放され、音楽会など多目的に利用されている (撮影/アトリエ・ワン)



レストラン  
 周囲の杉林が借景として美しく切りとられる (撮影/アトリエ・ワン)

建築主：学校法人成田山教育財団  
 設計：株式会社山下設計  
 施工：清水建設株式会社 千葉支店  
 所在地：成田市成田27

「空・緑・風」豊かな自然環境と調和する校舎

## 成田高等学校1号館



緑豊かな成田山を背景に佇み、スカイラインと呼応する外観 (撮影/エスエス東京 横瀬 博一)

この校舎は、明治31年創立の成田高等学校の創立115周年記念校舎整備事業として完成した。老朽化した校舎に分散する中学・高校の教室、事務機能、職員室の一体化をはかり、複雑な生徒動線の改善等を目的として、敷地内に中学・高校の機能を一つにまとめ「文武両道」の校是のもと、成田山公園を背景としてスマートな校舎が完成した。敷地北側の急斜面に対する安全性の確保も同時に図られている。また、従前からの植栽を可能な限り移殖して外構の再整備を行うことで、既存の自然環境を活かし、学園の歴史をつなぐ計画となっている。

正門を入れて先ず目に付くのが建物正面に設けられた大階段。正面から丘の上の校舎へと階段を上ると、その先にはガラス張りのホールが生徒を迎え入れる。1日の期待に満ちた始まりを予感させるような巧みな平面計画である。

内部は、校舎全体をつなぐ「吹き抜け空間」を中心に計画され、その1階に図書室・学習・進路指導を融合したラーニングセンターが配置されている。多彩な学習機能やガラス張りの相談コーナーを吹き抜け周囲に配置することで、生徒と生徒、生徒と教師とのコミュニケーションを

高め、自ら学習する環境が計画されている。南面する教室と北側に成田山公園のある立地条件を活かし、自然採光と通風を活用すると共に、将来の教育環境の変化に対応できる校舎として計画されている。

門前町の中限られた敷地での建て替え工事、既存校舎を活用しながらの綿密な計画の実績も高く評価したい。  
 (夏目 幸子)



生徒間、学年間のコミュニケーションの促進を図る、光に満ち溢れた吹き抜け空間 (撮影/山下設計)



吹き抜けと融合した、ラーニングセンター(図書機能・学習機能・進路指導)を校舎の中心に配置(撮影/山下設計)

優秀賞

住宅の部

建築主：橋本氏  
設計：布施 茂／fuse-atelier  
施工：株式会社長野工務店  
所在地：野田市

江戸川の眺望。スロープテラスのある住宅

## House in TSUTSUMINO



公園から見る南外観

この住宅は江戸川を望む住宅地の一角に位置し、緑地公園を介して河川敷が目の前に広がる環境にある。2階建て鉄筋コンクリート打放しのひとときわ目につく建物である。

アプローチは玄関を兼ねたガレージと2階カフェへの直通階段で、ガレージ内の音楽スタジオとカフェの空間は建築主ご夫妻のスペースである。それらがプライベート空間と緩やかに分節され機能している平面計画となっている。個室を仕切る壁は平面計画上、様々な角度があり煩雑に見えるが、ガレージから入り、屋根スラブを兼ねたスロープテラスまで上がって行く空間は変化に富んでいて、引き込まれるように楽しい。ガレージはリビングと前面道路側にも開放され、ときに賑やかなパーティスペースに変わるという。屋上のスロープテラスはリビングとカフェからつながる屋外空間である。スロープテラスをさらに上へ上っていくと、江戸川を望む眺望が見事である。テラスの段差の隙間が開

部となり、内部からは空や緑が切り取られたように垣間見える。この住宅の良さは二次元の図面では伝わらない。ずれていく平面と断面が作り出す空間が絶妙なのである。

加えて施工精度が優れている。基本的に内外壁はコンクリート打放し、熟練した高齢の型枠大工の仕事であったそうだが、設計監理者と施工者が細心の注意を払って進めた共同作業であったことが想像できる。清々しさを感じさせる空間に仕上がっている。

建築主から「こんな感じの家に住みたい」と設計者を探した経緯をお聞きしたが、空間を満喫して暮らしている様子が覗えた、完成度の高い住宅である。（藤本 香）



リビング、ダイニング上部、スロープテラスを見る



公園から見る南外観

## 入賞

一般建築物の部

地域に開かれた「くすりづくりの全てを見せる工場」

# 沢井製薬株式会社関東工場

敷地のある茂原市東郷地区は工業系土地利用の更新を進めながら田園風景を活かした町づくりが進められている。この建物は約2年をかけ、周辺の歩道整備、調整池の設置、並木や薬木などを配置することで地域環境の改善に力を注ぎ、景観を一新させた。周辺の住宅や学校と共存して、新しい工場のあり方を提示したと言える。

また日本で唯一の「くすりづくりの全てを見せる工場」が大きな特徴である。薬剤に関わる専門職の方はもちろんのこと、患者、地域住民も見学に訪れる。見学ルートは生産工程と同様とし、精密でクリーン、安全なくすりづくりの全容が見られるようになっている。建物の構造は製剤プログラムに合わせて、最新の製造設備機器が縦横に往来できるよう計画されている。作業する人とくすりは製剤課程で完全に分離され、それを俯瞰するかのように見学者ルートが考えられている。建築設計者との緻密な連携が必要だったと想像できる。

その他、沢井製薬のロゴマークの健康増進ラインをイメージした曲面ファサードやイメージカラーを積極的に使ったサイン計画など工場の概念が払拭されている。

専門家でなければわからなかった「くすり」がより身近な存在となったといえるだろう。

(藤本 香)



鳥瞰写真

最新の製薬行程を学べる見学者廊下



建築主：沢井製薬株式会社  
設計：大成建設株式会社一級建築士事務所  
施工：大成建設株式会社 千葉支店  
所在地：茂原市東郷1900-1

7

## 入賞

一般建築物の部

新しい教育環境の創造

# 学校法人渋谷教育学園幕張中学・幕張高等学校 30周年記念棟

千葉市美浜区若葉に計画された図書館と芸術・情報系の特別教室を複合させた新たな学習の場としての機能を持つ建築物である。建築面積1,976.75㎡、延べ面積6,074.34㎡、4万から約12万冊に収容書籍数を増やし従来からの図書館機能を拡充することに加え、コンピュータ・音楽・アートなどの教室を同一空間内に設けて視覚的にも連続させることで、自調・自考という建学の精神を具現化した学習センターとしての図書館、階段室の吹抜けを利用した自然換気・テラス部の緑化等環境に配慮した計画である。三角形の吹抜けをもつチュードホールは、上下階のホールや地階の図書館とも視覚的に連続している。方向性を持たない安定した自然光による内部空間。三角形の断面がピロティーの上に浮かぶ象徴的な形態は、自ら調べる知層としての図書館の上部に、自ら考える機能を持つ楔形の空間を乗せた記念館である。西側斜面状の三角形断面により図書館へ、間接光を取り入れると同時に西側グラウンドへの日射確保やグラウンドに吹く風を受け流す効果も生み出している。

(圓崎 直之)



建学の精神「自調」・「自考」を具現化したファサード  
自ら調べる図書館の上に、自ら考える楔形の空間を乗せた記念館に相応しい象徴的な形態



内部階段  
三角形の空間を結ぶ光溢れる階段  
(撮影/小川泰祐)

建築主：学校法人渋谷教育学園  
設計：株式会社竹中工務店  
施工：株式会社竹中工務店  
所在地：千葉市美浜区若葉1丁目3番地



建築主：国立大学法人千葉大学  
設計：鈴木 弘樹 + 田中 朋久  
施工：山内工業株式会社  
所在地：千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学亥鼻キャンパス内

入賞

一般建築物の部

由緒あるキャンパスに舞い降りた白い襞の小ホール  
**千葉大学るのはな同窓会館**

135年の歴史がある医学部の同窓会館として、小ぶりで清楚なモニュメントが生まれた。主な施設として存在感のあるシンボリックでキュービックなホールをはじめ、低層部の合宿施設等、すべての外壁は真っ白に塗られ、古い医学部キャンパスの中で異彩を放っている。緑陰の中に舞い降りたようなホールは、作者が言う人体の肋骨のアナロジーとして与えられた深くピッチの狭い庇の構造体が特徴的である。写真では大きなスケール感を見せるが、現場に立つと思いの外可愛らしい視覚的効果が印象的だ。あの「室生寺」の五重の塔を誰もが想起することだろう。配置上の軸線に関する記述もあるが、現場に立つとそれほど強く意識されることはない。建物の関係性や内部空間の機能よりも、この外観のイメージが全てを決めたのではないか。

生物体の建築的表現は、近代・現代建築の中でも時折試みられてきたことだ。しかし、この作品ではモダニズムの直線的な抽象性が凌駕し、有機的な生々しさや複雑さは全く感じられない。どこまでも白い全体の意匠がさらにそれを強調している。この秀作が長く美しく使われることを願いたい、そのための持続可能な維持管理の仕組みをぜひ構築してほしい。（岩村 和夫）

南東外観  
医学部135年の歴史を屋根の重なりで表現 ホールの高さは正門から13.5m



ホール内観  
窓によってキャンパスの風景が切り取られている  
キャンパスの軸と建築物がっている



(撮影/佐藤信太郎)

建築主：篠原氏  
設計：有限会社稗田総合建築設計事務所  
施工：石井工業株式会社  
所在地：印旛郡酒々井町

入賞

住宅の部

人も物も大きな環境の中で存在することを楽しむ

**篠原久雄邸**

大型商業施設に道一本隔てて建っているこの住宅は、建築面積80.79㎡、延べ面積124.36㎡、木造2階建の専用住宅である。環境負荷の低減に配慮され、その他、独自の取組や提案がなされている。構造材から仕上げまで、徹底したサンプスギの使用と、冬は薪ストーブ、夏は天窓からの重力換気によってエアコンなしで暮らすというさんむフォレストの提案により実現した。さんむフォレストというグループは、サンプスギですまいを造る地産地消のすまいづくり運動を続けてきた。当初の木材利用を森林再生につなげようという着想が、運動を続ける過程で資源循環のすまいづくり、地域づくりの運動へと変わっていった。地域の資源を扱う運動は当然地域の風土にかかわる。運動は、地域全体の資源循環の問題として捉えなければ森林だけが単純に再生することは、ありえないのだと気づかされた。外壁もすべてサンプスギの赤身板張りで、まったく塗装はされていない。この住宅での塗装は内部床の植物油と一部の建具以外になく、それ以外はすべてサンプスギの素地のままである。

外部の杉板はいずれ劣化し、シルバーグレーに変色する。地域づくりにつながる表現として、隣の大型商業施設とは対象的な佇まいとなっている。

(圓崎 直之)



全てサンプスギ赤身の素地



吹抜けと薪ストーブ  
すまいづくりの残材はエネルギー利用する

建築主：独立行政法人都市再生機構  
 設計：株式会社窓建コンサルタント  
 施工：株式会社浅沼組 東京本店  
 所在地：松戸市牧の原435-1ほか

「への字」住棟を分割して耐震化

# 牧の原団地 1-21号棟

不整形な平面形状の建物は、偏心が大きく地震時にねじれが生じるため、耐震の課題を抱えている。この住棟は「への字」をしているが、折れ曲がったところで切り離し、整形な2棟の板状住棟とすることで偏心を解消している。

不整形住棟の耐震改修は、標準住棟に比べてはるかに難しい。縦動線が1箇所のみである11階建ての住棟において、折れ曲がった部分の2階から11階まで、1スパン10戸を縦に切り取る大手術を施している。この工事を、施工上の高度な工夫により、居住を継続した状態で入居している人たちに負担をかけないかたちで実現させている。

大量の住宅需要に応え、日当たりがよく健康的な住環境を迅速に整備するには、板状住棟の並行配置が最も合理的かつ効率的だった。このように大量生産された住宅団地ではあったが、団地の中心となるところはアクセントとなるようデザインされている。牧の原団地では、買い物広場を挟んで11階建ての住棟が向き合っており、その一方を「への字」とすることによって特徴ある広場空間を創出している。団地のシンボルとなっている不整形な住棟のデザインを損なうことなく、耐震性を向上しようとした困難な挑戦を評価したい。

(岡部 明子)



南側より住棟全景



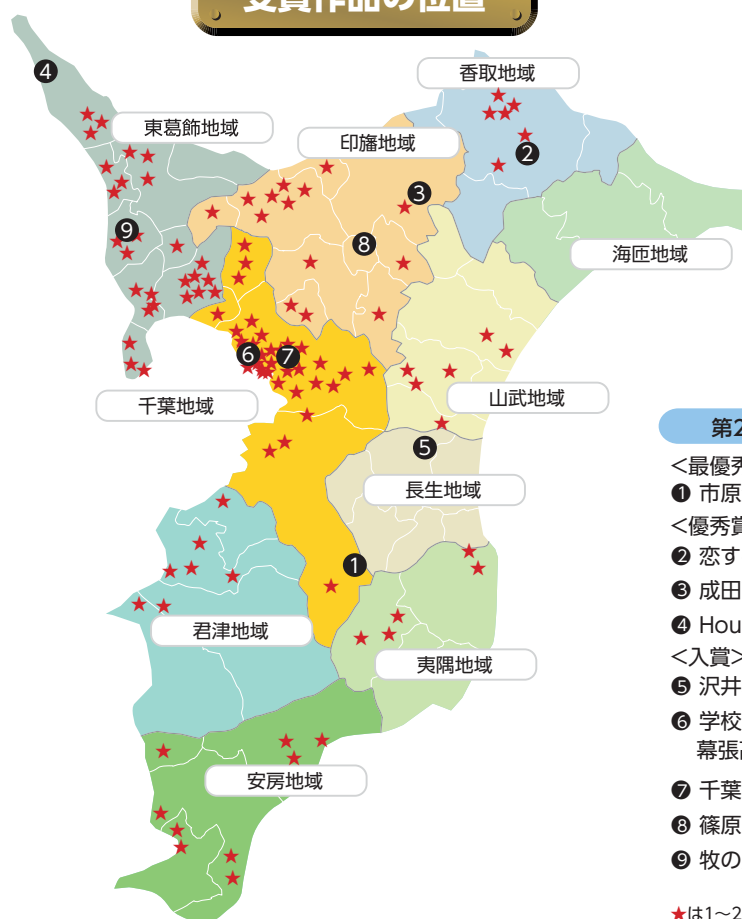
住棟分割部分

## 受賞作品の位置

### 建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数	
千葉市	27
習志野市	1
八千代市	2
市原市	4
市川市	4
船橋市	5
松戸市	5
野田市	4
柏市	3
流山市	2
鎌ケ谷市	1
浦安市	3
佐倉市	1
八街市	1
四街道市	2
印西市	6
白井市	1
栄町	1
成田市	2
富里市	1
香取市	6
山武市	2
東金市	3
大網白里市	1
大多喜町	3
いすみ市	2
鴨川市	3
南房総市	3
館山市	2
鋸南町	1
袖ケ浦市	1
木更津市	4
君津市	1
富津市	1
茂原市	1
酒々井町	1

計 111



### 第21回千葉県建築文化賞

#### <最優秀賞>

① 市原湖畔美術館

#### <優秀賞>

② 恋する豚研究所

③ 成田高等学校1号館

④ House in TSUTSUMINO

#### <入賞>

⑤ 沢井製薬株式会社関東工場

⑥ 学校法人渋谷教育学園幕張中学・幕張高等学校 30周年記念棟

⑦ 千葉大学みのはな同窓会館

⑧ 篠原久雄邸

⑨ 牧の原団地1-21号棟

★は1～20回の建築文化賞受賞作品

## 千葉県建築文化賞の実績(応募点数・受賞作品数)一覧

回数	年度	応募総数	建築文化賞		建築文化奨励賞	
			部門	合計		
1～19回計 (H6～H24)		1,600	景観上優れた建築物の部	46	96	58
			ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部	26		
			環境に配慮した建築物の部	24		
20	H25	68	一般建築物の部	4	6	2
			住宅の部	2		
1～20回計		1,668			102	60

回数	年度	応募総数		部門	建築文化賞			
		部門別内訳			最優秀賞	優秀賞	入賞	合計
21	H26	52	32	一般建築物の部	1	2	3	6
			20	住宅の部	0	1	2	3
合計		52			1	3	5	9

- ※1 千葉県建築文化賞は、「景観上優れた建築物の部」及び「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」の2部門への表彰制度として平成6年度に創設。
- ※2 第3回(平成8年度)に「建築文化奨励賞」を新設。
- ※3 第5回(平成10年度)に「環境に配慮した建築物の部」部門を新設。
- ※4 第12回(平成17年度)に「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」から「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」へと部門の名称を改称。
- ※5 第20回(平成25年度)に「景観上優れた建築物の部」、「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」及び「環境に配慮した建築物の部」の3部門から「一般建築物の部」及び「住宅の部」の2部門へと部門を再編。
- ※6 第21回(平成26年度)より「建築文化賞」及び「建築文化奨励賞」から「最優秀賞」、「優秀賞」及び「入賞」へと賞の区分を再編。

### 選考の基準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○デザイン性に優れていること</li> <li>○安全で快適な建築空間を創出していること</li> <li>○防災への配慮がなされていること</li> <li>○その他、独自の取組や提案がなされていること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○まちなみや周辺の景観と調和がとれていること</li> <li>○環境負荷の低減に配慮していること</li> <li>○施工上優れていること</li> </ul> |
|--|--|

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないことも求められます。

### 千葉県建築文化賞検討会議

- |                       |                              |
|-----------------------|------------------------------|
| 委員 長 北原 理雄：千葉大学名誉教授   | 委員 圓崎 直之：一般社団法人千葉県建築士会会長     |
| 副委員長 岩村 和夫：東京都市大学名誉教授 | 委員 岡部 明子：千葉大学大学院教授           |
|                       | 委員 夏目 幸子：建築家、NPO住まい・まち研究会理事長 |
|                       | 委員 藤本 香：建築士、千葉大学非常勤講師        |

【敬称略 委員は五十音順】

第21回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。応募総数52点の中から最優秀賞1点、優秀賞3点及び入賞5点の、合わせて9点が選定されましたが、応募作品はどれも優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携わられた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

(千葉県建築文化賞検討会議事務局)



千葉県マスコットキャラクター  
チーバくん

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。  
その間、県下の広い地域にわたり、延べ111の建築物が受賞され、それぞれの地域に根付いています。  
第22回の作品応募は、平成27年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。

#### お問い合わせ先

#### 千葉県県土整備部都市整備局建築指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 TEL.043(223)3181 FAX.043(225)0913

#### 一般社団法人 千葉県建築士会

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5 TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101

#### 後 援

(公社)千葉県建築士事務所協会

(公社)日本建築家協会関東甲信越支部千葉地域会

(一社)日本構造技術者協会関東甲信越支部JSCA千葉

(一社)千葉県設備設計事務所協会

(一社)日本建築学会関東支部千葉支所